

市長と語ろう！タウンミーティング 第7回 議事録

開催日時 平成23年8月4日（木） 午後7時～8時30分

開催場所 福島公民館

参加者 市民 11人

＜フリートーク（意見交換）＞

1. 米の放射性物質検査について
2. 国道355号バイパスに信号を設置して欲しい
3. バザール de いわまについて
4. 道路の補修について
5. 情報伝達の方法について
6. 区に加入していない世帯への対応について
7. 市立病院に産婦人科をつくって欲しい
8. 支所機能について
9. 国道355号バイパスの信号機設置について

＜内容＞

1. 米の放射性物質検査について

【意見等1】

11箇所の地点で、米の放射線量を調査するということだが、その調査結果は、地域にどのように広報するのか。もし、検査結果によって出荷停止となった場合、どのような対応をするのか。

【回答1】

細かなところは、生産者団体と打ち合わせをしていかなければなりません。11箇所のエリア単位で対応していこうと思っています。基準値を超えたものがあつたら、そのエリアから収穫されたものは出荷を停止するという考え方です。市町村では、出荷停止の制限は出せませんので、その結果を県に報告し、県が出荷停止の措置をすることになっています。例えば、そのエリアの中で一番早く収穫するようなところを検査することになると思います。明日、生産者団体の皆さんと会議を行い、具体的な方法を決めていきます。

【意見等2】

収穫直前調査で青作のうちに籾をとって検査し、刈り取った後の籾で検査し、籾で検査をしてクリアすれば、その後白米で検査するというような段階で進めると農水省で言っているが、茨城県もそれに準じて行うのか。新聞等では、旧市町村単位で行うと報道されているが、どうなのか。

【回答2】

茨城県も準じて行います。今日、県に行ってきた職員からの報告では、旧岩間町全部ということではなく、例えば下郷地区、上郷地区のように地区で11エリアに分けられるようです。

県内44市町村のうち13市町村が、収穫前に調査を行います。早いところは、あさってから行うようです。この13市町村は、県北地域や龍ヶ崎、守谷といったこれまでの空間線量が比較的高い地域です。残りの31市町村は、収穫直前に検査を行うという考え方です。

【意見等3】

サンプルをとって、結果が出るまでにどれくらい時間がかかるのか。

【回答3】

2日間と聞いています。籾で検査をするのか、白米で検査をするのかは決まっていません。明日の会議で方向付けしていきたいと思っています。

安心を提供するために一定の調査は必要だと思っていますので、きちんとした調査をしていきたいと思っています。

2. 国道355号バイパスに信号を設置して欲しい

【意見等】

1年前に355号のバイパスが開通し、地元の住民が交差点に信号機を設置してほしいという要望を出したが、どうなっているのか。

【回答】

国道355号バイパスの交差点へ信号を設置してほしいという要望はいただいておりますが、予算などの関係でなかなか進まないというのが現状です。改めて警察に要望したいと思います。近年では、22年度は6箇所、21年度も6箇所、笠間市内に信号機が設置されました。21年度と22年度は大きな道路が開通したので、6箇所設置されましたが、平均すると信号機は年に3箇所くらい設置されています。

3. バザール de いわまについて

【意見等1】

一昨年(2019年)の11月25日に当時の岩間商工会、青色申告会、法人会の3団体で行政懇談会が開催された。そのときに、バザール de いわまについて質問し、商工会、市、実施団体でこれからの進め方について協議をして対応するとのことだったが、今でもその回答がない。真摯にわれわれの声を受け止めて、結果はどうであっても答えてくれるべきではないか。

【回答1】

市政懇談会で、質問があったのは記憶しています。今でも返事がないということは、やっていないということだと思いますので、バザール de いわまについて検討するように改めて指示を出したいと思います。私自身、指示を出していなかったという点については、お詫びを申し上げます。市政懇談会で出されたご質問への回答がすばやくできないという点は、行政の改善していかなければならない点だと思いますので、ご指摘の点は反省したいと思います。

【意見等2】

バザール de いわまについては、広報や開催方法などについては検討しなければならないこともあるが、毎月1回行い100回を超えている。効率のよい行政をするのは当たり前だが、来年には岩間駅の橋上化が行われ、東側の道路の整備もされるので、岩間駅の西側も活性化していくようにバザール de いわまを今後も継続して欲しい。

【回答2】

バザール de いわまの開催については、今後も継続して広げていって欲しいと思っています。しかし、いろいろと問題提起があり、バザール de いわまの主催者と市で検討しようという約束はしましたので、きちんと話し合いをしたいと思います。

【意見等3】

バザールを市の補助金を使って行うのは、どれだけ効果があるのか疑問がある。バザール de いわまでお店を開くのが市外の人で、客は市内の人である。それに市の補助金を使って行うのは、おかしいと思う。商工会としても、もっと市内の人がお店を開くようなバザールにするべきであると思う。

【回答3】

22年度に補助金の検討委員会を開催しました。バザール de いわまへの補助金については廃止の方向となっています。補助金の見直しを行って、補助金を出すのが適切かどうかを含めて明確にしていきたいと思っています。バザール de いわまをよい形で開催できるように話し合いを進めていきたいと思っています。

【意見等4】

バザール de いわまは市と農協と商工会で、遊休地の活用を目的に無料で始めたものである。もし、やめた場合はその後の活用法がないと思われる。確かに地元の出店者はごくわずかだと思うが、当時市内の商業者に呼びかけもした。近くの飲食業を営んでいる方には、客を呼び込むような努力をして欲しいという呼びかけもした。出店するかしないかは個人の判断だが、窓口はきちんとつくっている。バザール de いわまの内容や開催の仕方には検討の余地があると思う。今後、

もう一度、地域の活性化の起爆剤となるよう、体制をつくる検討をして欲しい。

【回答4】

わかりました。

4. 道路の補修について

【意見等1】

本田医院前の農業集落排水の管が入っている道路が8月11日から全面通行止めとなっているが、9月の半ばまでかかると稲刈りが始まるので非常に困る。9月5日くらいまでに終わりにして欲しい。

【回答1】

道路工期は10月までとなっていますが、福島だけでなく谷和原や小島も合わせて工事をする予定となっています。福島工業と宮本建設工業で連携しながら、一度にすべて通行止めにするのではないようにしたいと思います。ただ、舗装などは、まず路盤工をしあげた後に、舗装をします。特に本田医院の前は、農業集落排水の管が壊れてしまっていますので、掘削工事が10月からの予定でその後、舗装工事となっています。皆様には大変ご迷惑をおかけしてしまいますが、最終的には1月くらいまでかかる予定です。

【意見等2】

農繁期の時期だけでも通れるようにして欲しい。

【回答2】

そのように調整したいと思います。

5. 情報伝達の方法について

【意見等1】

メールやパソコンが使えない高齢者が多いので、かさめ〜るに対応できない。他に連絡方法などはないのか。

【回答1】

今回の地震では、防災無線が聞こえないとか、子機が伝わらないとかいろいろあったと思いますが、一つの情報手段で、情報を伝えるということは難しいと思います。今回、かさめ〜るを活用しているのは、今回の震災で電話が通じなかった中でもメールは比較的通じたということと、リアルタイムに数多くの情報を市から発信していくことができるからです。携帯、メールが使えないという方がいるのも事実ですが、それは高齢者の世代でして、高齢者以外の中学生以上の世代ではほとんど携帯をもってメールのやりとりをしているのが現実ですので、情報手段としては伝わりやすいと考えまして、いろいろな市の情報を発信しています。利用するためには、ぜひ登録していただきたいと思います。

携帯を使えない人にどうするかということは、リアルタイムに情報を伝えるということは非常に難しいところです。1週間に1回などであったら、週報という方法がありますが、逐次情報を伝えるということについては、ホームページやメールにならざるを得ないと思います。放射線量の数値については、1週間に1回週報で公表しています。現実問題として万人に情報を届けることは無理です。生命に危機を及ぼすような場合は、何らかの方法でできるだけすべての方に伝えなければならない情報だと思しますので、そのときは、メールだけでなくいろいろな手段を使って流していく必要があると思います。その情報伝達の手段については、内部でいろいろと検討しています。そういう状況ですので、いろいろな方法で情報をとってほしいと思います。

【意見等2】

FMで流すのはどうか。

【回答2】

まだ決まっていません。FM放送は、高萩市が行っていますが、運営はどうするかという問題があります。運営費が相当かかります。震災前からFMを開局していたのは、水戸、つくば、日立でしたが、そういった市は広告料などの収入があります。行政で運営する場合にはそれなりの

費用負担があります。また、地形の問題もありまして、この方法が少しでも多くの人に伝わるのかどうか検討しているところです。

6. 区に加入していない世帯への対応について

【意見等1】

岩間地区では、区に加入していない世帯はどれくらいあるのか。また、区に加入していない人はどうやって情報をとっているのか。

【回答1】

区に加入していない世帯が一番多いのは、友部地区で、岩間地区は非常に少ないと思います。

通常の見聞板などは区に加入していない人には回りません。加入していない方は、若くてアパートに住んでいる方が比較的多いのですが、そういった方はホームページなどで市の情報は手に入れていて、それで間に合っているという傾向があります。見聞板や市報に載っていることは、だいたいホームページにのっていますので、そこで手に入れることができます。それ以外の必要なことについては、市役所に来ていただいて対応するとか、市としては行政区単位で、いろいろな情報やサービスを提供するという方法をとっていますので、故意に加入しないという方に対して、どこまで行政サービスを行っていくのかということにつながっていきます。生命の危機に関わることについては、行政区に加入、未加入に関わらずに情報を伝えたり、対応していったりしなければならぬと思います。しかし、行政区に未加入の方に、行政区に加入している方とまったく同じサービスをする必要はないと思っています。

【意見等2】

今回の震災時のように、区に加入していない方への区としての対応はどうしたらよいか。

【回答2】

災害時の判断と通常時の判断は多少分けて考えたほうがよいと思います。例えば、今回の大震災のような場合には、加入、未加入に関わらず、人道上の問題として、笠間市は、笠間市にいるすべての方にできるだけ対応するのが基本だと思います。

【意見等3】

例えば、火事するときなどは、区に未加入だからといって見て見ぬふりはできないので、常識の範囲で行うが、区の財産を管理するために負担金をとられるのがいやだといって区に加入しないのに、子ども会の活動には参加したいという方がいて、そういった方に区の施設等を使わせないということもできない。対応分けが難しい。

【回答3】

どこの地区でも、課題となっていて、解決手段がないのが事実です。しかし、区に加入しないことを認めてしまうと区が成り立たなくなってしまうので、区長さんにご負担をおかけしてしまいますが、できるだけ加入していただくように働きかけてもらいたいと思っています。

【意見等4】

例えば、祭りに参加するのがいやで区に加入しないというように、区の付き合いでわずらわしいものは避けたいという風潮がある。区に加入した場合と加入しない場合の違いがわからない人もいる。人と人とのつながり、区の大切さを行政としても啓蒙して欲しい。

【回答4】

難しい課題です。

7. 市立病院に産婦人科をつくって欲しい

【意見等1】

合併当初からみると、笠間市の人口は減っている。原因はいろいろあると思うが、子どもたちを安心して育てられる環境の整備ということが行政の課題だと思う。そういった点で市立病院に産科を設けて欲しい。

【回答1】

合併以来、約2千人の人口が減っています。一番減少率が高いのは笠間地区で、友部地区はほ

ば横ばいで、岩間地区は若干減っています。市でも理由等を分析していますが、高校を卒業して大学や就職をする25歳前の世代が笠間市から他の市へ流出しているという傾向があります。若い人たちを地域に足止めするためには、医療体制の充実も取り組まなければならない問題という認識はあります。ただ、現実的には医師の確保は、難しいところがあります。われわれとしても、広報や紹介、全国自治体病院の協議会で医師の募集などをしていますが、思うようにはいかないのが現実です。今まで何人かの医師と会って面接等しましたが、だれでもよいというわけではありませんので、難しいところです。引き続きいろいろな手段を使って、産婦人科を含めた医師の確保を目指していきたいと思います。

夜7時～10時までの準夜間の診療も現在行っていますが、友部の県立中央病院や市内の病院の先生1人と看護師2人で、交代で診療を行っています。これは、中央病院の救急受け入れがパンク状態となってしまうということ、受け皿の一つとして、簡単な診療は市立病院で行うということから始めました。しかし、大病院志向が強く、中央病院の患者数は減っておらず、市立病院は、平日夜間の診療平均は3人程度しかありません。利用が多いというのがよいというわけではありませんが、現在は少ないので、医師、看護師、薬剤師の経費として年間2千万円の赤字となっています。2年目となりましたが、これも継続していくべきか考えなければならぬと思っています。安心を買うという意味で2千万は高いか安いかは、意見が分かれるところです。PRもしていますが、中央病院の方も拒否しないですべて受け入れる場合、やはり中央病院に行ってしまうという傾向があります。中央病院でも、市立病院でも診療しているということはお話してくださっていますが、患者さんが選択しますので、結果的には中央病院に行ってしまうという状況です。

【意見等2】

お医者さんが開業するのは大変なことだと思われるので、例えば水戸の中央ビルのようなレンタルクリニックなど、施設をレンタル制にして開放するのもよいと思う。すべて市で行わなくてもよいので、効率のよい方法を考えて欲しい。

【回答2】

中央病院や地元の病院の先生に交代でお手伝いをいただきながら、救急医療を行うという仕組みは、非常によい仕組みだと思います。

8. 支所機能について

【意見等】

今後、支所機能はどのくらい縮小され、どのくらい残されるのか。

【回答】

今年の5月から支所の課の数を減らしました。体制はほぼ維持していますが、1年に1、2度しか用がないような業務については、本所へ、ということで縮小したものもあります。現在はスタートしたばかりなので、来年、再来年にまた縮小ということは考えていません。当面は、今の状況を維持していきます。支所のあり方を検討する中でも、住民の皆さんが支所をよく利用するのが住民票や印鑑証明等の証明書の交付や福祉関係の申請・相談といったものですので、例えばコンビニ等でそういった証明書が発行できるようになった場合には、縮小ということもあるかもしれませんが、当面は今の形を保ちたいと思っています。

9. 国道355号バイパスの信号機設置について

【意見等】

国道355号バイパスが開通してから、朝は本当に渡りづらくなった。また、夜は信号機がないために、バイクが飛ばしてうるさい。信号機があれば変わると思う。

【回答】

現況を確認して欲しいと警察に伝えます。